

ケベックの州民投票、六月に

ケベック州政府によると、ケベック・カナダ間の主権・連合に関する協定の交渉権を州政府に委ねるかどうかを決める州民投票は、六月に実施されることになった。

投票の結果、州政府が交渉をまかされ、しかも交渉によりケベックの政治的地位を変更することになった場合、ケベック州政府は二回目の州民投票を行ない、州民に変更の是非を問うことになるという。州民投票は四年間に一回しかできないため、第二回目が行なわれるとしても、一九八四年以降となる。

ケベック自由党 カナダ憲法改正案を発表

ケベック自由党のクロード・ライアン党首は、一月十日、先に提示されたケベック党政権の「主権・連合」白書への対案を発表した。「新しいカナダ連邦」と題するこの文書の中で、ライアン氏は、上院の廃止とこれに代わる連邦審議会（各州政府の代表者によって構成する）の創設、権利・自由憲章の制定、州政府の権限増大、英仏両語の連邦機関公用語としての

認定——などを提案している。

オタワに科学技術担当官 日本政府が初めて派遣

在加日本大使館に、初めて科学技術担当官が赴任した。これは、日加間の科学技術交流の重要性を示すとともに、日本が科学技術面におけるカナダの成果を評価したものである。カナダでは歓迎されている。

初代担当官となったのは、科学技術庁原子力局調査国際協力課から外務省へ出向した間宮馨氏。京都大学から電子工学で修士号を得たほか、米ミシガン大学で行政学を専攻している。

なお、在日カナダ大使館には、従来から科学技術担当参事官がおり、現在の担当官はジヨセフ・マクドゥウオル氏。

金属探知器がブーム

金の国際価格が異常に高騰した結果、カナダでは浜辺などで珍しい光景が見られるようになった。指輪、金貨、銀貨などを金属探知器で探し求める人が増えたのである。趣味の宝探し用にと昨年探知器を買ったオンタリオ州のエドワー

ズさん夫妻は、金ブームに目をつけて、今度は探知器を売る側に回った。狙いはまんまと当り、一月ぐらゐの間におよそ千台も売りさばいたという。探知器の値段は、安いのが七十五ドル、高いのは五百ドル。

エドワーズさんによると、金銀の価格が上がったため、宝探しがカナダ全国で流行し、定年退職祝いの贈物も、これまでの金時計から金属探知器にする人が増えているらしい。

太陽熱の貯蔵に沸石 カナダで可能性を研究

太陽熱は代替エネルギーのホープといわれているが、問題はそれをどう貯蔵するかだ。特に冬の長いカナダでは、夏の間に太陽熱をためて冬に利用したい。

これまで石や水が貯蔵法として用いられてきたが、保熱時間はせいぜい一日か二日とまり、経済性に欠ける。最近、グラウバー塩（芒硝）も用いられている。

カールトン大学（オタワ）の研究者たちが考えたのはゼオライト（沸石）。シリコン、酸素、アルミニウムなどからなる結晶性鉱物で、合成沸石は石油加工の触媒として使われている。結晶構造は格子状になっていて、そのすき間で湿気を吸収する。そのため、沸石は長い間、乾燥剤として使用されてきた。

沸石の吸収・放出サイクルでは、熱は、格子から水の分子を追い出すことによつて沸石を乾燥させる。ただそのためには、そこに水分を閉じ込めていた力を克服しなければならぬ。それに要するエネルギーが、潜在エネルギーとして貯蔵される。また沸石層は温度が通常に戻ると、失なつた水分をたちちに吸収しようとする。そのときに熱を放出する。つまり、沸石層の湿気源を断ち切つてしまえば、熱の放出は起こらないわけである。温度ではなく湿度によつてこの反作用を制御するため、沸石層の温度はもはや関係なくなる。断熱の必要もないし、熱ロスの問題もない。

したがつて、沸石は熱を無期限に保存することができるといわれる。沸石のエネルギー密度は一立方メートル当り百万BTUと極めて高く、グラウバー塩より二倍も効率があるとみられている。

モントリオール万国園芸博 五月十七日から九月一日まで

北アメリカでは初めての万国園芸博覧会が、五月十七日から九月一日までの三か月半、カナダのモントリオールで開かれる。この「モントリオール万国園芸博覧会1980」はカナダ政府、モントリオール植物園、ケベック州の三者が共催するもので、五月



十七日から同二十九日までは一九七六年のオリンピック大会で自転車競技などが行なわれたベロドロームで室内展、五月三十一日から九月一日まではモントリオール万博の会場だつた人工のノートルダム島で野外展が開かれる。

室内会場では、世界各国の切り花、顕花植物、熱帯・亜熱帯植物、サボテン、鑑賞用植物、かん木、盆栽、ドライ・フラワー、いけ花などが展示され、野外会場には、花、常緑樹、果樹、野菜をはじめ、それぞれの国の特徴をいかした花壇、庭園、児童庭園、コミュニティ庭園などが見え、予定期中では約四百万人の観光客がこの博覧会に訪れる見込みという。

なお、モントリオール万国園芸博のシンボル・マーク（写真）は、グラフィック・デザイナーのマーセル・カティエ氏の作品で、モントリオールのM、ケベック州の花である白ユリ、世界の輪および手に持った花束をデザインしたものである。

低質石炭を加工 エネルギー源に

硫黄、灰、水分が多いためにほとんど利用されていない低質の石炭から不純物を除いて、燃焼力のあるエネルギー源にする方法がカナダで開発された。

低質の石炭をまず粉末にして、水および少量の軽油と混ぜる。石炭と不純物は表面性質が異なるため、これら二つの液体に対する反